教主さまお作　灰釉茶盌　銘「真清水」

【みろく池土　本宮山松釉】

題字出口直日

通巻第581号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

ゆかりある魂を高天に招ぎよせて
弥勒の御代を神は開かす

出口王仁三郎聖師

大都会のオアシスへ

総務管理課　松田達子

東京本部・東光苑に着任してから3カ月になります。着任以来、信徒の皆さまには家族のようにお声かけくださり、心地よくご奉仕させていただいております。

私は、生まれも育ちも亀岡で、天恩郷の中で育てていただいたようなものです。このたびの人事発令で、初めて亀岡を離れることになりました。大都会で生活する自分の姿が想像できず、不安を抱えながら赴任してまいりました。

こちらでの暮らしは、思いのほか温和です。サイレンが響く繁華街の近くにあるにもかかわらず、苑中は穏やかな静寂に包まれています。東京にいることをすっかり忘れて、天恩郷にいるような錯覚を起こすこともしばしば・・・。

着任後、業務の引き継ぎを慌ただしく受けながら、来苑者をお迎えする毎日。意外だったのは、大本信徒にとどまらず、一般の方も毎日のように東光苑に足を運んでくださることでした。中でも、宗教学を専攻している大学生のグループが複数、来苑されることに驚きました。この地に大本の活動拠点がある意義を再認識すると同時に、彼らが大本の教風に共感する姿に勇気づけられています。

7月月次祭の添釜では、四代教主さまのお軸「わけいせいじゃく」（和敬清寂）が掛けられていました。その場に四代教主さまが微笑みながらいらっしゃるようで、入席された皆さまとともに、その場に会した喜びを分かち合わせていただきました。

来苑された皆さまは一様にすがすがしい表情をされています。皆さまにとっても安らぎの場で、ここは大都会のオアシスなのだと深く感じています。

大神さまのもとで、心豊かに過ごさせていただけることは、何よりの喜びです。

大都会のオアシスで、皆さまのお越しをお待ち申し上げております。

出口直日、日出麿からみた みろくの世

～立直しの提言～

出口直日三代教主と、その夫・日出麿尊師は、明治、大正、昭和、平成を生き、現代人にわかりやすく「みろくの世」を説き、自らその生き方をお示しくださいました。そのお示しとご生涯にスポットをあて、みろくの世の生き方を探っていきます。

「みろくの世」とは

最初は、出口王仁三郎聖師の話から始めます。聖師は「みろくの世」について、次のようなことを述べています。

仏法では、正法、像法、末法と世が移って、今は、末法の世であるといわれています。末法の世では、仏の教えが通じなくなるのです。法滅尽経には、お坊さんが堕落するようになってお釈迦さまの教えが通じなくなってしまう世界が説かれています。その時に弥勒菩薩が現れて、世の中を救うというのです。

キリスト教の聖書にも、天国が来ることが書かれていますが、これは実はみろくの世のことで、裁きだとか、最後の審判、終末が来るというのも、実はこのことを指しているというのです。

その上で大本は、独自の展開として、法身、応身、報身と三つの弥勒が出て、ご神業が進展するといいます。

法身弥勒は出口なお開祖のご神業、応身弥勒は王仁三郎聖師と二代教主・すみこの時代。そして、報身弥勒は、三代教主・直日、三代教主補・日出麿尊師の時代以降からずっと続いていく時代です。報身弥勒の世になれば、みんなが喜び勇む世になり、さらに深まっていって、真の弥勒の世を迎えるのです。

聖師は「報身の弥勒の世になれば、皆が喜ぶ世になる。之を天国とも極楽の世とも云へるのでありませう。實に鼓腹撃壤の世の中になって来る」（『出口王仁三郎全集』第2巻）と明言しています。しかし、それまでに大峠があるとされています。この大峠は、お筆先に何度も登場します。今まさに大峠と言える時代で、日出麿尊師は、実に端的に示されています。

「世の立替え立直しとは、とりもなおさず、黄金や札たばをギロチンにかくることとなり。金の世を、人の世にひっくり返すことなり」（『信仰覚書』第3巻）

お金や物に執着する世の中を、人間中心の世の中に変える、変わらねばならないと、おっしゃっているんです。

また、三代教主は、

貧富の差ちぢまりて地上にあらそひの
無き世ときけばひたに恋しき

世の中がこのような姿に向かっていけば、地上世界にみろくの世が到来するのではないでしょうか。

大本弾圧を乗り越えて

三代教主は、大本開教から10年後の明治35年、王仁三郎・すみこの長女としてお生まれになりました。日出麿尊師は30年生まれ。お二方とも、ほぼ開教と同時に、この世に生を受けておられます。

日出麿尊師は岡山でお生まれになりました。岡山六高から京都大学に進み、中退して大本本部に奉仕されます。昭和3年に三代教主とご結婚になり、昭和10年までの7年間、出口王仁三郎の跡継ぎとして国内外を駆け巡り、それはそれは大活躍をされます。それで、昭和10年に勃発した第二次大本弾圧事件では、非常な拷問を受けることになります。

同じ獄舎で、聖師がその拷問の激しさを残されています。

日出麿は竹刀で打たれ断末魔の
悲鳴あげ居るを聞く辛さかな

厳しい拷問の繰り返しに、死の寸前まで追い込まれ、精神も病んでいきます。偽って狂人を装うことを佯狂といいますが、この時、警察は日出麿尊師の病状を疑い、さらに激しく拷問するわけです。その結果、すっかり心身を病んで、虚ろな状態になってしまわれます。

このようなことから、三代教主、日出麿尊師は、兵庫県の竹田に移り住むことになります。

百姓の道にひたすらはげみゆかぬ
寂かなる生をただ願ひつつ

草刈れば痛き心も慰むに
昼の日中も草刈りにけり

どのようなご心境で、竹田時代を過ごされたのか、このお歌から拝察されます。そういう中で真剣に茶道、あるいは日本の伝統芸術に精進され、今日の大本教団の教風「信仰即芸術即生活」、その元が築かれていくわけです。

世の良き鏡となって

文字通り、命がけで生き抜いた、三代教主は、次のように述べています。

「神さまのお示しに、大本は型の出る所であると申されておりますが、現在、もっとも大切なことは、世の鏡になる良き型を出さしていただくことであるとおもいます。

一人ひとりが、神さまの示されている人としての生き方、在り方に徹していくことが、神さまのみ心にかなう家庭をきずき、社会を生み出し、世界となってゆく良き雛型となり、礎となってゆくのであるとおもいます」（『寸葉集』巻2）

～21世紀・生きがい講座～

猪子　恒（東京宣教センター次長）

大本では、みろくの世を実現するために、ここから世に広げていく、日本に、世界にその型を出すというのです。

『信仰覚書』の精神

拷問の末にご発病になられてから、年月がたつにつれ、尊師のご様子が段々変わってゆきます。激しかったご霊交も時間とともに治まってく。そのようなご生活の中に神秘や奇跡、さらには神さまの深い摂理があることを三代教主は確信されてゆきます。

次のお歌は三代教主が、ご還暦を迎えた日出麿尊師を詠んだものです。

神仙の世界に君はゐましつつ
わがゆく道を照したまへる

尊師の『信仰覚書』全8巻は、信徒の「教説書」として親しまれています。冒頭、三代教主は「序にかえて」に、次のように書かれています。

「大本の教は開祖さまのお筆先を経とし、聖師さまの霊界物語を緯として、経緯が示されています。そうしてその経緯から、新しく生まれましたのが、この――日出麿先生の覚書――であります」

『信仰覚書』には開祖、聖師の精神がしっかりと説かれているというのです。覚書の元は、学生時代からの日記で、若き日の僅かな期間、ご自分に対して書かれているご文章ですが、人間の魂の向上、身魂磨き、霊界の様子、霊界との関係、個人・社会の発展など、終始、尊師のやさしさと愛にあふれる表現で書かれ、私たちを導いてくださっています。

ああ一尺を譲れよ人のために
一椀を減ぜよ人のために

人類に対する赦しと癒し、励まし、隣人に対する普遍愛、この『信仰覚書』の精神が世の中の人に共有され、人間がより普遍的になり成熟してくると、社会が変わってくると思います。

私なりに、「みろくの世への精神」を端的に示すとするならば、次のお言葉を上げます。

世の中をよくするたったひとつのものがある。それは好意である

希望の言葉〝エスペラント〟

大本は、みろくの世へ繋がる大きな道標として、国際共通語エスペラントを採用しています。

エスペラントとは、希望という意味の人造語です。大本では、「Unu Dio Unu Mondo Unu Interlingvo」《一つの神、一つの世界、一つの国際共通語》という精神を掲げています。

これから世界が一つになる時、日本の明治維新の廃藩置県で標準語が制定されたように、世界でも一つの言葉が必要になるはずで、私はこの言語に、みろくの世への希望が秘められていると確信しています。

エスペラントの採用を決めたのは、聖師ですが、その直接の起点は京大、日出麿尊師でした。ご自分でも習得され、大正15年には、「エスペラントを中等教育に採用せよ」と題し、機関誌に大論文を寄せています。教育の中に取り入れることが普及には一番早いというわけです。

エスペラントは三代教主も精力的に推進されました。私が若い頃、朝陽館という教主公館の宿直業務をさせていただいておりました。三代教主は80歳になるころで、このお館にお休みでした。朝一番に聞こえてくるのは能楽、英語、エスペラントなど、お稽古のお声です。当時、一番ご熱心にお稽古されていたのはエスペラントでした。

三代教主は「とにかく片言でもいいから自分たちの会話にエスペラントを取り入れるぐらいの覚悟を持ちましょう」と言われ、自ら率先して実践されていました。エスペラントを話される人が来たときはエスペラントでご挨拶される。おもてなしの心ですね。相手を慮る「和」の心です。その上で次の言葉もあります。

「世界の平和には、民族と民族が、平等の関係におかれなくてはなりません。その基礎となる第一のものは、国際共通語（エスペラント）であり、共通語が第二民族語・国語として用いられることであります」「人類の英知を結集して、地球的規模で、方向を見定める日は、意外に早く訪れてくるようにおもわれます」

（『教主御教示集』～出口直日三代教主～）

これは世の制度として、エスペラントが用いられること、その日が近いことを指していると思われます。本当に、みろくの世の曙光が、もう目の前に近づいて来ているのではないでしょうか。

「みろくの世」の実現は、私たちの心の持ち方とその実践にあるのです。私自身、歴代教主に習いつつ、少しでも実践させていただきたいと思います。

掲載文は、平成29年3月15日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭は7月9日、午前10時30分から、斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、278人が参拝した。

祭員は埼玉主会、少年祭員は同主会の遠藤あかりさん、池田心音さん、伶人は二絃の会関東支部、伊都能売神論拝読は大坂泰造東京主会長、添釜は東光庵にて東京主会が担当した。

祭典後、猪子恒東京宣教センター次長があいさつに立ち、教主さまのご近況について紹介。次いで7月5日から6日にかけて九州北部を襲った集中豪雨での、信徒3世帯の被害状況を報告した。また「来年は東京本部開設50周年、新東京本部完成10周年の節目を迎える。記念祭典や式典など、皆さまとともに、慶祝行事を盛り上げていきたい」と述べた。

引き続き、金剛流仕舞「呉服」の奉納があり、直会に移った。

みなづきの集い

東京本部直属信徒と関東在住の他教区所属信徒を対象とした研修会「みなづきの集い」は、6月25日午前9時30分から東京宣教センターで開催され、6人が参加した。

参加者は、講話「2度の弾圧を乗り越えて」、ワークショップ「大本と能楽」を受講、茶席入席、お作品拝観、浄書のほか、ビデオ「この世の向こうに」を視聴し、講師を囲んで歓ぎの座を行った。参加者からは、「浄書させていただいた尊師さまのお言葉が心に染みた」「伝統芸能に触れさせていただき美と調和した神さまの世界は素晴らしいと感じた」などの声が寄せられた。

お抹茶のいただき方を教わる参加者

21世紀・生きがい講座

第173回「21世紀・生きがい講座」は、7月19日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、奥脇俊臣・大本本部国際愛善宣教課員が「大本の宗際化活動」～宗教の壁を越えて～と題して講話した。参加者は22人（内、一般7人）。

講師は、根本教典『大本神諭』に「世界国々所々に、世の立替えを知らす神柱は、沢山現われるぞよ」と示され、出口王仁三郎聖師も「国々に御名を変へさせ給ひつつ救ひのために降りますきみ」（『大本の道』）と示しているとして「世界中の宗教の神仏は、主神の分霊分体であり、元は一つであると教えられている」と語り、「聖師が大正時代から精力的に取り組んだ、海外諸宗教との提携・協力の和は型となり、現在、世界中で広がっている」と、大本の宗際化活動、宗教間対話の歴史を語った。

参加者からは「大本の宗際化の歴史・内容の素晴らしさを感じた。万教同根の教えが古くから実践され驚きです」（男性・一般）等の声が寄せられた。

東光苑道場講座

日　時 9月16日（土）午前8時半受付
～18日（月・祝）午後4時ごろ閉講予定
会　場 大本東京本部・東京宣教センター
参加費 1人4,050円（期間中の食費・宿泊費）
※資料「修行のしおり」（別途500円徴収）
内　容 大道場講座初日から現代の大本まで
※亀岡・神苑案内と高熊山参拝は免除扱いになります。綾部での日程をご受講いただき、全日程受講修了ができます。
申込み 食事・宿泊を明記の上、東京宣教センター愛善宣教課「東光苑道場講座」宛にお申込み下さい（定員30人）
締　切 9月6日（水）必着

東光苑秋季祭式講習会

日　時 9月22日（金）午前9時より受付
～24日（日）午後4時半ごろ閉講予定
会　場 大本東京本部・東京宣教センター
参加費 1人1,000円
※食事・宿泊代は別途実費を徴収します
内　容 初級クラス：基本動作から月次祭まで
中級クラス：庭上祭・結婚式など
申込み 受講クラス・食事・宿泊を明記の上、東京宣教センター祭務課「秋季祭式講習会」宛にお申込み下さい（定員40人）
締　切 9月18日（月）必着

東光苑祭典・行事予定

8月
7日（月）午前10時30分
開教125年　瑞生大祭遥拝祭
13日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭
16日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　市民のための患者学
講師　加藤眞三
（慶應義塾大学看護医療学部教授）
27日（日）夕拝時
神集祭遥拝（初日・旧7月6日）

9月
2日（土）夕拝時
神集祭遥拝（最終日・旧7月12日）
10日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・長寿感謝祭・交通安全祈願祭・秋季合同慰霊祭
11日（月）午後7時
全国一斉世界平和祈願祭
16日（土）～18日（月・祝）
東光苑道場講座
20日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　ポテンシャルの引き出し方
～自己魂を練る～
講師　小藪資史（特派宣伝使）
22日（金）～24日（日）
東光苑秋季祭式講習会
23日（土・祝）午前10時30分
三代教主毎年祭（27年）